

## 第 5 学年 道徳学習指導案

- 1 主題名 困った人の身になって
- 2 内容項目 2－(2) 思いやり・親切
- 3 資料名 「くずれ落ちただんボール箱」

### 4 ねらい（視点）

#### 視点 1 「学びを高める教材化」

よい人間関係を築くには、相手に対する思いやりが不可欠である。この思いを育んでいくために、多様な人と直接的にかかわり合い、人間愛を根底とした思いやりや親切な行為の意義を実感できる場を設定することが重要と考えた。そこで、滝野宿泊学習などの行事や他教科等との関連を図りながら主題を構成することで、思いやりの心をもつことの大切さについて深く考えられるようにした。

また、本主題では、道徳的価値を多面的に捉えられるよう、チームワークの意味や、誠実に行動することの価値、相手の立場に立って考える大切さについて考える道徳の時間を構成した。このような活動を通して、「どのように接し、対処することが相手のためになるのか」をよく考えて実践しようという思いを深める姿を目指していく。

#### 視点 2 「学びを支える教師のかかわり」

子どもたちは、思いやりをもって他者と接する大切さについては十分理解している。そこで、本時は、人に認められなくても相手の立場や気持ちを考え、だれに対しても温かく接する大切さに気付くようにすることを目標とした。

そこで、主人公である「わたし」の心情だけではなく、手紙という形で「わたし」の親切に応えようとした店員やおばあさんの行為の裏にある気持ちを考えることで、見返りを求めずに相手を思いやることの価値について気付くことができると考えた。

そして、板書上に三者の心情を位置付けることで、相手の身になって行った行為が、次の親切な行為につながっていくことを押さえ、自分から進んで親切にしようという意欲を高めていきたい。

目標：店員の謝罪の手紙を読んで変化する主人公の心情を考えることを通して、困っている相手の身になって考え、進んで親切にしようとする意欲を高める。

### 5 本時の展開

時	主な学習内容・活動	評価・留意点
	<p>「わたし」はどうしてだんボール箱をかたづけただのかな</p> <p>おばあさんが大変そう。 そのままにしておけない。 <b>放っておけないよ!</b></p> <p>店員にしかられたとき、「わたし」はどんな気持ちだったのかな</p> <p>● 自分は悪くない！ ● こんなこと、やらなきゃよかった。 ● 分かってもらえなくて悲しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>● どの子も資料の内容を理解して話し合いに臨めるように、朝読書等で事前に読んでおく。</li><li>● 困っているおばあさんを放っておけない「わたし」の気持ちを押さえることで、三者の思いに共通する相手を思いやる気持ちにつなげられるようにする。</li></ul>

### 手紙の内容を知った「わたし」は何を思ったのかな

#### 自分の思いやりが認められて

- むしゃくしゃしてたけど、すっきりした。
- 分かってもらってうれしい。
- 親切にしてよかった。

うれしい

#### おばあさんの思いやりが

- わざわざ店員さんに説明してくれた。
- 私たちのことを心配してくれたんだ。

#### 店員の思いやりが

- わざわざ、学校まで手紙をくれた。
- 申しわけない気持ちを伝えてくれたん

- 見ず知らずのわたしの気持ちを考えてくれた。
- 黙っていてもいいのに、わざわざ伝えてくれた。

わざわざ、どうして…？

親切な気持ちに答えたい  
叱られたままでは、かわいそう…  
何とかしてあげたいな…

放っておけないよ！

相手を思いやる気持ちで、心が温かくなったよ。  
困っている人の身になって考える気持ちがつながってるね。

思いやりの輪を広げていきたいな！

- そもそもどうして手紙が届けられたのかを問うことで、「わたし」だけでなく、おばあさんと店員にも思いやりがあることに気付けるようにする。
- もし、手紙がなかったら、「わたし」はどうなっていたかを問うことで、相手の身になって行った行為が次の親切な行為を生んでいくことに気付けるようかわかる。